

B-29 よこメリヤス編地の形態安定性の実験

大阪市大家政 田中 道一
弓削 治
○豊田 錦

1. メリヤス編地は編成による機械的処理などによって編成後に緩和収縮を起こすことが多い。

メリヤス編地の形態的安定性におよぼす緩和収縮を平編地、変り編地について、毛糸、アクリル糸、綿糸を用いて検討した。

2. 手編機を用い、上記の各種糸で編機のゲージを各種に変えて編成した。編地は万能投影機によって1個のループの長さを測定した。緩和収縮は単位面積当たりの編目数とループの長さの自乗の関係から緩和常数Kを求めて検討した。

実験結果によれば Doyle や Munden の研究とよく一致し、単位面積当たりの編目数はループの長さの自乗に逆比例し、常数Kは編下し直後から乾燥緩和、湿潤緩和となると共に14から16くらいまで変化する。これらは平編地についてであるが、変り編地についても実験した。